

文学部通信教育課程

【2024 年度大学評価総評】

文学部通信教育課程では、2022 年度実施の学生モニターの結果を踏まえ通信教育部学生のニーズを把握すること、2023 年度には全学の学習支援システムの統合認証を学生に付与すること、オンラインスクーリングを導入することなど、教育課程・教育内容の適切な評価・改善を継続的に実施している点は高く評価できる。その効果の測定方法については、まだ道半ばであり適切な結果は得られていないものの、方法の検討・改善など前向きに取り組む姿勢は評価できる。ぜひよい結果がでることを期待したい。

一方で、現状分析の基準 5：学生の受け入れについて、定員充足率の項目が（おそらく継続的な）課題となっている部分は、厳しい環境条件であるだろうことは想像しつつも、大学評価の観点からすれば一定の改善を期待したい、望まれるポイントである。おそらく問題意識は共有されていて、学科ごとに改善計画も策定されており、課題解決へ向けた前向きな取り組みとして評価される。他方、通常の通学課程においても将来の少子化傾向に鑑み、学生の確保対策に取り組んでいる最中である。それとは直接的な状況が異なるとしても、充足率の減少傾向が事実なのであれば、何かしら効果のある実効的な対策を講じる必要がある部分は共通である。絶対的パイが減る中で、いかに充足率を維持するかへの即効的な解決策を見つけることは難しい問題であるが、これまでの伝統・歴史を大切に温めつつも、時代の変化に臨機応変に対応してゆくしなやかな対応を期待したい。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
1.1① ・法政大学 HP「教育目標 通信教育課程」 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/tsukyo.html)	
1.1② ・法政大学通信教育部学則第 1 条 2 項および別表（7） ・法政大学 HP「教育目標 通信教育課程」	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部（学科）において、通信教育部長及び通信教育学務委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部（学科）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	

2.1① ・法政大学通信教育部学則、通信教育学務委員会規程 ・2023年度 第1回～第11回 文学部定例教授会 議事録 2.1② ・「2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書（文学部通信教育課程）」 ・「2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書（文学部通信教育課程）」 ・2023年度 第1回～第3回 文学部質保証委員会 議事録
--

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
4.1①④ ・法政大学 HP「大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）通信教育課程」 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo.html) ・「通信教育部の3つのポリシー」『学習のしおり』 4.1②③ ・法政大学 HP「大学の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）通信教育課程」 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/tsukyo.html) ・「通信教育部の3つのポリシー」『学習のしおり』	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学通信教育部学則」第27条（授業科目）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
4.2① ・「教育課程表（カリキュラム表）」『学習のしおり』 4.2② ・Web シラバス・通信教育部 ・「文学部 日本文学科 専門教育科目」『通信学習シラバス・設題総覧』 ・「文学部 史学科 専門教育科目」『通信学習シラバス・設題総覧』	

<ul style="list-style-type: none"> ・「文学部 地理学科 専門教育科目」『通信学習シラバス・設題総覧』 <p>4.2③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学通信教育部学則別表（1） ・「単位制度」『学習のしおり』 <p>4.2④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス・通信教育部 ・「単位制度」『学習のしおり』 <p>4.2⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育課程表（カリキュラム表）」『学習のしおり』 ・法政大学通信教育部 HP 「通信教育部日本文学科ディプロマポリシー及びカリキュラムマップ」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/japanese-literature/subject/curriculum-map.pdf?date=2023036) ・法政大学通信教育部 HP 「通信教育部日本文学科カリキュラムツリー」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/japanese-literature/subject/curriculum-tree.pdf?date=2023036) ・法政大学通信教育部 HP 「史学科ディプロマ・ポリシー及びカリキュラムマップ」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-map.pdf?date=20200220) ・法政大学通信教育部 HP 「史学科カリキュラムツリー」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-tree.pdf?date=20200220) ・法政大学通信教育部 HP 「地理学科ディプロマ・ポリシー及びカリキュラムマップ」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/geography/subject/curriculum-map.pdf) ・法政大学通信教育部 HP 「地理学科カリキュラムツリー」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/geography/subject/curriculum-tree.pdf)
--

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学通信教育部学則」第30条（年間履修単位の上限）に基づき1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③ICTを利用した遠隔授業は自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<p>4.3①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法政大学通信教育部学則」第4章 教育課程（年間履修単位の上限）第30条、（教職課程及び資格課程）第28条の2 ・「単位制度」『学習のしおり』 <p>4.3②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スクーリングによる学習」『学習のしおり』 ・「スクーリング」『法政通信』3、4、5、7・8、9、10・11月号（受講定員のある授業の記載号） <p>4.3③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メディアスクーリング（インターネットによる学習）」『学習のしおり』 <p>4.3④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・web シラバス・通信教育部 	

4.3⑤	<ul style="list-style-type: none"> web シラバス・通信教育部 『通信学習シラバス・設題総覧』
4.3⑥	<ul style="list-style-type: none"> 「学習環境のサポート」『学習のしおり』

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学通信教育部学則」第32条（既修得単位の認定）に基づき既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学通信教育部学則」第29条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい

【根拠資料】

4.4①	<ul style="list-style-type: none"> web シラバス・通信教育部 日本文学科オリジナルサイト (http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=571) 『日本文学科のしおり』（通教用学科手引書）第3版、2013年 『史学科のしおり』（通教用学科手引書）第4版、2019年 地理学科サイト (https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page_id=1332) 『地理学科のしおり』（通教用学科手引書）、2022年
4.4②	<ul style="list-style-type: none"> 「履修・成績の確認方法」『学習のしおり』
4.4③	<ul style="list-style-type: none"> 「単位制度」『学習のしおり』 「放送大学での修得単位の認定」『学習のしおり』
4.4④	<ul style="list-style-type: none"> 法政大学 HP 「教育目標 通信教育課程」 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/tsukyo.html) 法政大学 HP 「大学の学位授与方針（ディプロマポリシー） 通信教育課程」 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo.html) 法政大学 HP 「大学の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） 通信教育課程」 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/tsukyo.html) 法政大学 HP 「卒業要件（通信教育課程）」 (https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/57405/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54)
4.4⑤	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業に関する手続きなど（文学部）」『学習のしおり』
4.4⑥	<ul style="list-style-type: none"> 「通信教育部の3つのポリシー」『学習のしおり』 2023年度第5回 文学部定例教授会 議事録 2023年度第10回 文学部定例教授会 議事録（卒業判定）

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
---	----

5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
5.1①② ・法政大学 HP「アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）通信教育課程」 (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/tsukyo/) ・「通信教育部の3つのポリシー」『学習のしおり』 ・日本文学科オリジナルサイト (http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=571) ・『史学科のしおり』（通教用学科手引書）第4版、2019年 ・地理学科サイト (https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page_id=1332) ・『地理学科のしおり』（通教用学科手引書）、2022年 5.1③ ・法政大学通信教育部 HP「出願から学習開始までの流れ」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/application-flow/) 5.1④ ・法政大学通信教育部 HP「事前相談を要する方」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/outline/application-notesb.html#menu) 5.1⑤ ・法政大学通信教育部 HP「入学要項・学費について」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/)	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	いいえ
【根拠資料】	
・「法政大学通信教育部入学者数・在籍者数等の推移」（通信教育部提供資料）	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1②法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1③科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1④各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑤教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
6.1① ・法政大学通信教育部学則 ・法政大学 HP「教員組織内での役割分担」 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/8517/1149/9915/2-a-2_1.pdf)	

<ul style="list-style-type: none"> ・「文学部教授会規程」、「文学部教授会規程内規」、「文学部人事委員会細則」および各学科「人事に関する内規」
6.1②③ <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学通信教育部 HP 「教員一覧」 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/teacher/) ・法政大学 HP 「専任教員数」(女性教員比率及び外国人教員比率) (https://www.hosei.ac.jp/application/files/8816/8775/6456/1-b-2_1.pdf)
6.1④ <ul style="list-style-type: none"> ・「2024 年度文学部（通信教育課程）日本文学科スクーリング科目担当者一覧」 ・「2024 年度文学部（通信教育課程）史学科スクーリング科目担当者一覧」 ・「2024 年度文学部（通信教育課程）地理学科スクーリング科目担当者一覧」 ・「2024 年度文学部（通信教育課程）日本文学科通信学習科目担当者一覧」 ・「2024 年度文学部（通信教育課程）史学科通信学習科目担当者一覧」 ・「2024 年度文学部（通信教育課程）地理学科通信学習科目担当者一覧」
6.1⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度 第 1 回 通教関連学科連絡会議 議事資料

基準 7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
【根拠資料】	
7.1① <ul style="list-style-type: none"> ・「学習質疑制度」『学習のしおり』 ・「オフィス・アワー制度」『学習のしおり』 	
7.1② <ul style="list-style-type: none"> ・「身体または精神に障がいもしくは疾病があり、学習に際して特別な配慮を希望される方」『学習のしおり』 	
7.1③ <ul style="list-style-type: none"> ・「本科生の長期の在学を可能にする制度（再度の入学・卒業計画書）」『学習のしおり』 	

基準 8 教育研究等環境

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
9.1①② <ul style="list-style-type: none"> ・『日本文学誌要』(http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=165) ・『法政史学』(https://shigaku.ws.hosei.ac.jp/4-05-hoseishigaku.html) ・『法政地理』(https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/publication/) 	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
5 学生の受け入れ	5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
<p>カリキュラム改革や広報活動をするなど、各学科でそれぞれ以下のような努力を行っている。</p> <p>【日本文学科】 定員の充足のあり方に関しては通信教育課程全体に関わる大きな問題である。日本文学科でも定員の未充足については、認識しており、問題点を明確化し、改革を進め、2013年度から新カリキュラム（文学・言語・芸能文化のコース制、通信教育部生に対する通学課程夜間時間帯授業の開放、スクーリングの拡充）を実施し、努力している。大学公式HPだけでなく、日本文学科でオリジナルサイトを運営し、広く社会に向けて広報活動を行っている。また、教員個人のSNSアカウントを通じて、学ぶことの重要性和愉しさを社会にアピールする努力もしている。</p> <p>【史学科】 入学定員の未充足状況については、社会人学生や生涯学習志向の中高年の学生が多いという通信教育部の特性から考えると、経済状況など社会のさまざまな影響が考えられ、学科としての努力にも限界があるという見方もある。しかし、教職員一体となってカリキュラム改革や広報活動に努めている。たとえば、カリキュラム改革では通信科目・スクーリング科目の他にメディアスクーリング科目を設置し、学習の利便性を高めている。また、大学公式HPに加えて、学科独自のHP（法政大学文学部史学科・法政大学史学会WEBサイト）を開設・運営するのみならず、法政大学史学会として学術雑誌『法政史学』を刊行・送付し、広く社会に向けて広報活動を行っている。</p> <p>【地理学科】 新規入学者数、在籍者数は長期にわたって減少傾向にあった。地理学科単独での対応には限界があるが、そうした中でメディアスクーリングの授業を増やしており、新規入学者数の確保に貢献しつつある。今後、通信教育部全体の対策とともに学科としての対応もさらに検討していく。現行カリキュラムの問題点を再検討してカリキュラムの一層の充実をはかり、それを学外へ発信するよう今後とも試みていく。通信制教育の実施大学において、地理学科は本学以外に存在しないことを再発信する方法もまた、事務部とともに再検討する必要がある。</p> <p>また、通信教育課程の卒業生が本学などの大学院へ進学するケースが増えてきていることや、社会において活躍していることを鑑み、同課程卒業生の進路・活躍などについても発信していく必要があると考える。</p> <p>上記の3学科それぞれの努力に加え、2024年度から通信教育部学生に対して学習支援システムの統合認証を付与することを決定している。また、オンラインスクーリングの導入も決定していることから、学習の利便性を高め、いっそう学びやすい環境の創出に努めている。直ちに定員充足に至ることはないとしても、入学者の増加と学習意欲を高める効果があらわれることを期待したい。</p>	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>文学部通信教育課程は、学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供を掲げており、卒業論文を必修科目とし、丁寧に指導し、優秀論文を積極的に公表している点が高く評価できる。また、他にも特色として、対面授業、双方向授業の重視を掲げており、日本文学科では、通学課程の夜間時間帯（6、7限）の授業を、通教課程の学生にも開放した点が、高く評価できる。これは、対面・双方向の教育の導入であるだけでなく、通学課程の学生と一緒に学ぶ機会を提供することにもなっており、通教課程の新しい方向性の一つを示すものである。また、地理学科では現地研究（フィールドワーク）によっても、対面・双方向の教育を実現している。</p>

2022年度目標は重点目標を含めて達成されており、2023年度も適切に目標設定がされている。中でも学生支援については、2022年度通信教育課程で初めて学生モニター制度を導入し、その結果を教授会や教育開発支援機構と共有している。2023年度はその結果を踏まえた学生支援のあり方について議論を行うことが目標設定されている。

定員充足率については、2013年度のカリキュラム改革（通学課程授業の開放など）を始め、広報活動、メディアスクーリング、在籍が長い学生への個々の対応など、継続的に真剣な対応・努力が続いている。入学定員の充足率が低いこと自体は問題でなく、スクーリング等で様々なきめの細かい取り組みを可能としている点は、大いに評価されるべきであろう。たとえば地理学科の「現地研究」では実際に学生と共に現地におもむいて調査をおこなうなど、通信教育では通常では考えられないような授業が提供されているが、これは入学者が多すぎないことで実施できている面があり、充足率単体だけを取り上げて問題とすることは適切でないということを痛感した。

今後、COVID-19禍から通常に戻る中で、禍中に得た経験も活かして、さらに高い水準の教育、研究が行われることを期待する。通学課程のオンライン化が進む中で、通教課程の意義を、再度、整理・確認し、一層高め、その内容を広く伝えていく中で、定員の充足率が高まることを期待したい。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

文学部通信教育課程では、学生の能力育成のために日本文学科・史学科・地理学科においてそれぞれ教育内容を精査し改善のための努力が続いている。また、2022年度に実施した学生モニターの声も参考にして通信教育部学生のニーズを把握し、2023年度は全学の学習支援システムの統合認証を学生に付与することや、新たな授業形態としてオンラインスクーリングを導入することを決定した。新たに導入する授業の効果測定方法については学科単位で議論が続いており、学部全体としての共有は十分とはいえないものの、まずは2024年度に行われるスクーリングを通して各学科における特有の課題を洗い出すなど実質的な検討を行っていく予定である。

また、日本文学科における通学課程の夜間時間帯の授業の開放や、地理学科におけるフィールドワーク授業「現地研究」の実施など、以前から力を入れている対面・双方向性を高める取り組みも継続している。なお、文学部通信教育課程では卒業論文が必修で、学位授与方針も明快である。卒業論文においては教員による対面指導（オンラインを含む）も行っていることから、大学における教育課程の充実度は高く、体系的かつ専門的な学びを実現する仕組みを整えている。

一方、定員充足率が低いこと、専任教員の負担が大きいことは依然として課題である。これらを改善していくためには学習の利便性と効率性を向上させていくことが大切であり、教員の負担をなるべく増やさないようにしながら新しいシステムへの適応を図り、遠隔地を含む多くの学生の履修を促進することで、定員の充足率を高めるよう努めたい。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5②アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部（学科）内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
--	---	-----------------------

上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。
Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。
Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。	
年度目標	2022 年度に実施した学生モニター制度の成果を活用しながら、カリキュラムポリシーによりふさわしい科目の配置や設置を検討する。	
達成指標	各学科において学生の声にもとづいた科目配置等について検討し、教授会で報告・共有する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学生モニターにおいては、COVID-19 禍のもとで行ったリアルタイム配信型のスクーリングが好評であった。このため、学務委員会において提案のあったオンラインスクーリングの新設を第1回教授会で承認した。各学科においてはそれぞれのカリキュラムポリシーにもとづいて検討し、オンラインスクーリングで実施する科目を第7回教授会で決定した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生モニター制度を活用して得た学生の声も踏まえつつ、オンラインスクーリングの導入を教授会で承認した。また、各学科もカリキュラムの内容を検討した。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。	
年度目標	COVID-19 禍におけるこれまでの経験をふまえて、メディアスクーリングやリアルタイム配信型のスクーリングなど、オンラインを利用したスクーリングの充実について検討する。	
達成指標	今後のオンライン授業のあり方やさらなる導入の可能性について各学科で検討し、教授会で意見交換や情報共有を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	夏期スクーリング・冬期スクーリング・週末スクーリングにおいてオンラインスクーリングを設定することについて各学科で検討して第1回教授会で承認した。なお、演習科目については対面で実施することが必要である場合も認め、両者を併用することのメリットについても議論された。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	スクーリング科目のうち、オンラインで提供する科目と対面で提供する科目を選定し、その過程でオンライン授業の効果や可能性も検討した。年度目標は十分に達成できたと言える。
改善のための提言	2024 年度の通信教育課程の時間割編成では、原則オンラインで開講される夏期および冬期1群科目の授業日程が、通学課程の授業日程と一部重複するなど、混乱がみられた。	

		文学部執行部の責任ではないが、通信教育部とも連絡を取りつつ、授業日程や運営方法について適宜確認していくことが必要だと考える。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるレポート評価点の成績への反映方法について検討する。
	年度目標	オンラインを利用したスクーリングにおける学習成果の測定方法について検討する。
	達成指標	各学科において、通信教育の特性をふまえた検討を行い、その結果を教授会で報告・共有する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	オンラインスクーリングの内容を検討する過程において、各学科において議論を行ったが、新制度の導入にあたって多様な科目の測定方法を検討し十分に共有するまでには至らなかった。
	改善策	2024年度より導入されるオンラインスクーリングのシステムについてよく学び、授業の進め方と評価の方法について検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンライン授業の効果測定の方法にまで議論が及ばなかったのは確かである。
	改善のための提言	オンラインスクーリングを経験した学生のみならず、当該科目を担当した教員からも感想や意見を募ってはどうか。また、成果や効果を測定する方法についても、あらかじめ検討しておく必要があるだろう。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
	年度目標	出願時に提出を求める「志願書2」について、近年変更した学科についてはその効果の検証を行い、それ以外の学科については変更の必要性について引き続き検討する。
	達成指標	それぞれ学科会議において議論し、その結果を教授会において報告する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「志願書2」の内容と効果について各学科で検討し、日本文学科による改訂が第4回教授会に提案され承認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	各学科で検討を行い、日本文学科が「志願書2」の内容と課題図書の一覧を改訂した。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
	年度目標	専任教員の新規採用に際しては、年齢、国際性等、将来に予想される教員構成を勘案しつつ、適切に人選する。
	達成指標	人事委員会および教授会において、教員構成の現状分析と将来構想をふまえながら、専任教員の新規採用に関する審議を行う。
年度 末 報	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	第2回・第3回・第4回・第5回・第6回・第7回人事委員会および教授会において哲学科、英文学科、史学科、地理学科の専任教員人事について十分な議論と検討を行い、教員構成の改善につながる専任教員の採用を実現した。

告	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	人事委員会と教授会で、教員組織の現状と将来構想を十分に考慮しつつ、人事案を審議・承認した。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準		学生支援
中期目標		通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
年度目標		スクーリング科目や通信科目に対する学生の意見を検討するとともに、今後の学生支援のあり方について議論を行う。
達成指標		学生モニターの分析をもとに、各学科で望ましい教育の機会について検討するとともに、学習支援システム等の導入・活用について検討して、教授会で情報共有する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学生モニターの分析から、教育の質と機会を保つためには、各種情報をよりわかりやすく学生に伝える手段を確保すべきであると考えた。学務委員会において通信教育部学生に統合認証 ID を付与して学習支援システムを導入する提案があり、各学科での検討を経てこれを第 1 回教授会で審議・承認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	昨年度に実施した学生モニターの結果も考慮しながら、望ましい教育と情報提供の方法について議論した。また、来年度から統合認証 ID を利用した学習支援システムを導入することを教授会で承認した。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
年度目標		学生モニターの分析をふまえて、特に社会人でもある学生からの学習の機会に関する意見を検討する。
達成指標		各学科において分析を行い、今後の対応を検討して教授会で報告・共有する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	地方在住の社会人学生等にさらなる学習機会の提供が可能となるよう、第 1 回教授会においてオンラインスクーリングを新設することを承認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	地方在住者や社会人学生の事情も踏まえ、オンラインスクーリングの新設を承認した。年度目標は達成したと言えるが、他方で、スクーリングの開講時期や地方スクーリングにかかわる課題など、より広い見地から議論をしてもよかったのではないかと。
改善のための提言	オンラインスクーリングの導入がその他の形態のスクーリングに及ぼす影響を注視しつつ、社会人や地方在住者の学習機会をさらに広げていく方策を検討していく必要があるだろう。	
【重点目標】		
COVID-19 禍におけるこれまでの経験をふまえて、メディアスクーリングやリアルタイム配信型のスクーリングなど、オンラインを利用したスクーリングの充実について検討する。		
【目標を達成するための施策等】		
大学は通信教育課程のオンライン化を強化する方針であり、その策定に先立って文学部で実施した学		

生モニターではメディアスクーリングや遠隔形式でのスクーリングの要望が多く出されている。これらに対応する審議を各学科および教授会で行い、学部として適切な検討を行っていききたい。

【年度目標達成状況総括】

2023年度の文学部通信教育課程においては、通信教育部におけるオンライン化の方針と学生からの声をもとに検討を行い、オンラインスクーリングの導入を決定し、科目を選定した。授業において成果の測定をどのように実施するかについては、新たに導入するシステムの中で何が可能なのかを検討することが必要であり、これを通信学習の総合的な成績評価を行うためのステップとするべきだと考えている。学生の受け入れにおいては志願書の見直しを適宜行っており、教員組織のありかたについても適切に検討した上で人事採用につなげている。文学部通信教育課程では、2023年度の目標を概ね達成したものと認識している。

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
年度目標	新たに導入した学習支援システムやオンラインスクーリングが今後のカリキュラムの見直しや再編につながるかどうかについて各学科において検討し、必要に応じてカリキュラム改編を行う。
達成指標	現在のカリキュラム編成状況を検証するための学科会議を開催する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。
年度目標	スクーリング授業の実施状況を検証する。あわせてスクーリングの開講日程について通学課程の開講日程との調整を図る。
達成指標	対面ないしオンラインで実施されているスクーリング授業が適切に配置されているかどうかを学科会議において検討し、必要に応じて改善を行う。また、スクーリングの開講日程について学務委員会で確認し、適切性を確保する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるレポート評価点の成績への反映方法について検討する。
年度目標	学生に統合認証が付与され新しい環境の下で実施されるオンラインスクーリングにおいて、学習成果を適切に測定するための方法や課題について検討する。
達成指標	学科会議において議論し、その成果を教授会で共有する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
年度目標	各学科の専門領域に対する学習意欲をもつ入学希望者を適切に入学させるために、出願書類の「志願書2」を検証し、必要に応じて内容を変更する。
達成指標	学科会議において出願書類を検証し、変更について審議する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
年度目標	年齢、国際性等の観点から教員組織の現状を検証し、さらに多様性をもった教員構成を目指す。
達成指標	人事委員会および教授会において、過年度の教員採用状況を共有し、教員構成の将来像を見据えつつ、専任教員の新規採用に関する審議を行う。
評価基準	学生支援
中期目標	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握

	に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
年度目標	学生の希望をもとに導入したオンラインスクーリングに対する受講希望や受講状況を把握し、今後のスクーリング科目の設定に活用する。
達成指標	通信教育部の在学生アンケートやスクーリングの受講動向を各学科で検討する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
年度目標	より多くの社会人学生のニーズに応えられる、オンラインスクーリングの方策を検討する。
達成指標	オンラインスクーリングにおける開講科目の多様性を確保する方策について学科で検討を開始する。
<p>【重点目標】 スクーリング授業の実施状況を検証する。あわせてスクーリングの開講日程について通学課程の開講日程との調整を図る。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 2024年度より開始されるオンラインスクーリング（夏期1群、冬期1群、後期に実施される週末スクーリング）によって、スクーリング授業全体の受講動向がどのように変化するか学科毎に確認する。また、オンラインスクーリングが科目の特性に応じて適切に実施されているかどうかを各学科において検討し、必要に応じて改善を行う。さらに、スクーリングの開講日程について学務委員会で確認し、通学課程授業との調整を通じて適切性を確保する。</p>	